

道、水路、そして家

～世界に住まい、たがやす～

■展示

期間/ 11月7日(月)～11月26日(土) 10:30～17:00

場所/ 東京理科大学・小布施町まちづくり研究所

■研究活動報告

日時/ 11月19日(土) 13:00～14:00

場所/ 北斎ホール

■次世代まちづくりワークショップ報告

日時/ 11月19日(土) 14:00～14:20

場所/ 北斎ホール

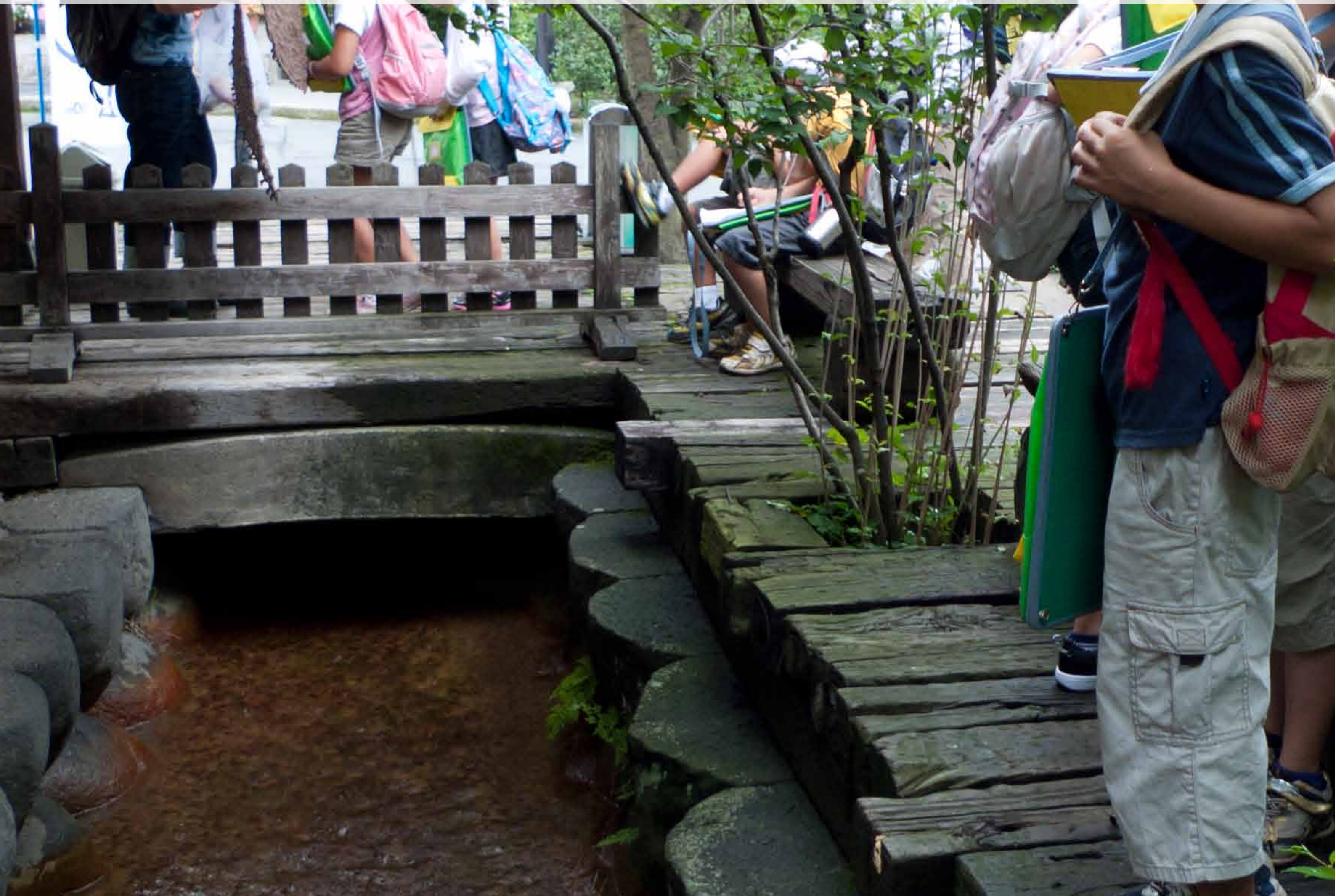
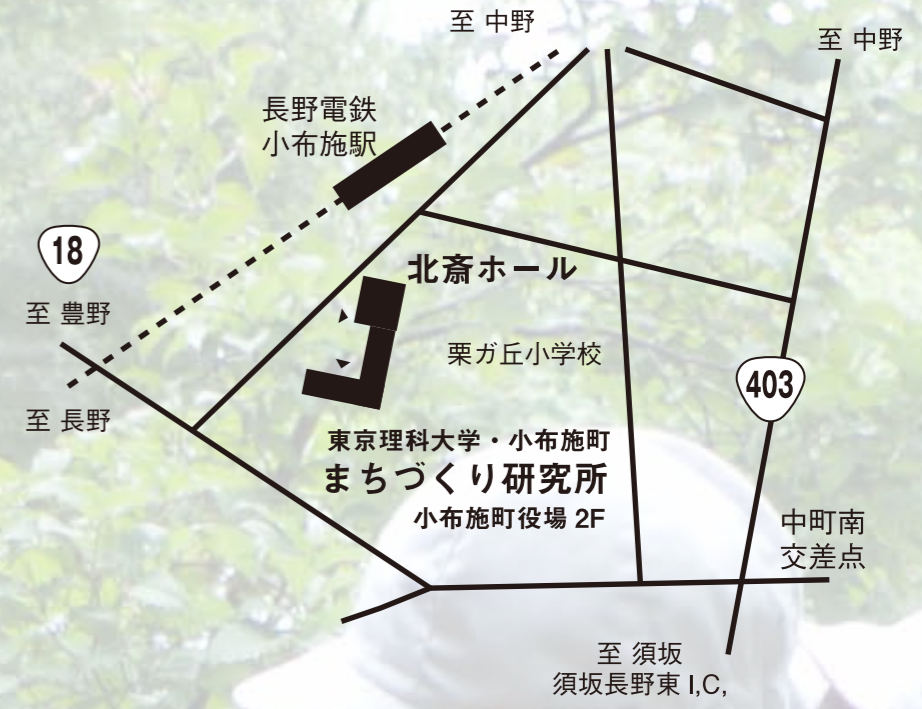
入場無料・事前予約不要

■シンポジウム「人が住まう風景をつくる思想と手法」

日時/ 11月19日(土) 14:30～17:00

会場/ 北斎ホール

入場無料・事前予約不要



東京理科大学・小布施町まちづくり研究所

まちに大学が、まちを大学に

まちづくり研究所が開設されて7年目。毎年1回この時期に開催してきた研究活動報告・展示・シンポジウムも第7回になります。今年は3月11日に東北大震災が発生して、大津波で集落全体が消滅し、長年住み慣れた家が奪われ、大勢の人々が避難所生活を余儀なくされる姿を見て、被災者のみならずすべての人々が改めて、家族とは何か、家とは何か、地域のつながりとは何かを考えた年です。深く考え、よく調べて、未来に向かって慎重にまちづくりを推し進めるという意味では、研究所が掲げてきた

「まちに大学が、まちを大学に」の精神が、復興する被災地にも広がって実践されているような印象すら受けます。研究活動報告では、私たちの日常世界を構成する道・水路・家などについて、新たな思いで取り組んだ研究の成果を発表します。また、小、中学校のワークショップでは水路を調べ、自然の流水のもつパワーを体験しました。今年のシンポジウムでは、長野県の建築士会のみなさんと、建築・造園などの専門家としてどう「人の住む風景」をつくっていくかを考えます。

シンポジウム

共催：長野県建築士会

「人が住まう風景をつくる思想と手法」

～風景をつくる仕事に従事する人々(建築士・造園家など) 6チームの発表

日時/ 11月19日(土) 14:30～17:00

会場/ 北斎ホール(長野県小布施町)

入場無料・事前予約不要

■ゲスト・コメンテーター

古谷誠章氏 (ナスカー級建築士設計事務所主宰、早稲田大学教授)

国広ジョージ氏 (ジョージ国広建築都市研究所主宰、国土館大学教授、アジア建築家評議会会長)

郡裕美氏 (スタジオ宙一級建築士事務所主宰、元コロンビア大学准助教授)

後藤和子氏 (埼玉大学教授、文化経済学会<日本>会長)

■進行役

川向正人氏 (東京理科大学・小布施町まちづくり研究所所長)

道や水路をつくるのは土木の仕事であって、自分たちは与えられた敷地のなかで建築や造園に従事すればよいのだという思考に慣れると、自分たちの仕事が広く風景をつくり人々の生活の場をつくっていることを忘れがちです。人がある場所に根ざして生きようとすれば、必然的に、大地を相手に建てたり耕したりする



©「信州の民俗」

行為を伴います。その総体がまちづくりであり風景づくりなのですが、すべての行為の発端に「この場所に根をおろして住みたい」という人の強い思いがあるように思われます。その思いをどう実現させるのか、ゲスト・コメンテーターを交えて活発な議論を展開します。

研究活動報告のテーマ

「国道403号の実測調査」



小布施流の国道整備計画も、提案を具体化する段階です。そのために今年度は国道を丹念に実測調査してきました。寸法をきっちり押さえ、正確な図面を作ると同時に、国道を構成する要素を一つひとつ確認してきました。

国道403号の道空間について、現状と今後の展望を報告します。

「養蚕建築の活用」



小布施町では、明治後期には農家の約8割が何らかの形で養蚕に従事したと言われていました。そのために今日でも養蚕建築が数多く残っており、重要な景観要素となっています。養蚕自体は行われていませんが、建築的に素晴らしいものが少なくない蚕室に関して、町外の事例も参考にして再生利用の道を探ります。

「水路研究」



水路は、昔から人々の生活を支える重要な要素でした。現在では、生活用水としての役目を果たしていますが、景観づくりの観点から再び見直されつつあります。多くの水路がコンクリート製に変わった今でも、小布施の町内にはかつての姿をとどめる場所もあります。まちの共有財産である水路がどのように造られ、使われてきたのかについて発表します。

「保存から住民主体による修景へ：萩の場合」



現在、全国にある重要伝統的建造物群保存地区が、高齢化や空き家の増加といった問題に直面しています。その中で文化財保存から大きく踏み出して、修景的方法を加えた住民主体のまちづくりに取り組む例が出てきました。重伝建地区と周辺での生き生きとした生活空間づくりへの試みと課題を報告します。

「小布施の街の照明」



昼間の賑わいに比べて小布施の夜は暗い。しかしながら画一的な光で明るくすれば良いわけではなく、道行く人に安全と安らぎを与えることが大切です。中町南から松川橋北までの街路照明について現状を調査し、家の内部から外にもれる光を最大限に活かした、生活者の息づかいを感じさせる照明計画を立案します。

「ヨーロッパのまちづくり：フライシュタット&チェスキー・クルムロフ」



ヨーロッパ歴史街区での文化財的価値を有する建築の再生と活用に関する研究です。ヨーロッパでは博物館的保存ではなくて、必ず現代生活が可能な再生利用の道が探られます。オーストリアのフライシュタットとボヘミアのチェスキー・クルムロフにこの夏、長期滞在して調査研究を行った成果の一部です。

「木工に見る職人の知恵：継ぎ手・仕口」



これまでも研究所では茅葺き・土壁・たたきなどの職人技術の研究をし、ワークショップで実際にそれを使うことを試みてきました。今年は、水路を流れる水を利用して芋を洗って皮をむく「芋洗い水車」を、釘・接着剤を使わずに木工の伝統技術である継ぎ手・仕口を用いて組み立てる研究です。

まちづくり次世代WS報告：小学生&中学生



今年是小・中学校ともに「水路」を巡るワークショップ(WS)でした。小布施では昔から用水路を生活に使う工夫が凝らされ、優れた遺構が残っています。小学生は貴重な遺構を見て回り大きな「水路マップ」を制作。中学生は「芋洗い水車」を継ぎ手・仕口の木工技術で制作。栗が丘小「小布施の水路を体験しよう」と小布施中「芋洗い水車で知る水路の魅力」という2つのWSの報告です。

お問い合わせ

東京理科大学・小布施町まちづくり研究所

〒381-0297

長野県上高井郡小布施町大字小布施 1491-2
(小布施町役場 2 階)

TEL 026-247-3111

FAX 026-247-3113

URL <http://www.machizukuri-lab.com>